


**第7回渡良瀬遊水地エリア検討部会  
議事要旨**

**【概要】**

日 時	令和元年 11 月 29 日（金）14:00～16:20
場 所	栃木市藤岡遊水池会館 2階会議室
議 事	<p>(1)「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン実施状況報告」について</p> <p>(2)「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン決定後の新規取り組み」について</p>
配布資料	<p>1. 議事次第</p> <p>2. 出席者名簿</p> <p>3. 出席者席配置図</p> <p>4. 推進協議会規約・名簿</p> <p>5. 検討部会規約・名簿</p> <p>6. 第7回渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会 渡良瀬遊水地エリア検討部会 資料</p> <p>7. 渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン</p>
出席者	【第7回渡良瀬遊水地エリア検討部会 配付資料「出席者名簿」のとおり】
会議風景	

**開会挨拶（利根川上流河川事務所三橋所長）**

- 本日は、規約2条に則り、本年5月10日に開催した第6回渡良瀬遊水地エリア検討部会で決定された『渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン』にある各項目について半年間における実施状況報告と、加えてプラン決定後に新たに実施した取り組みについてご報告させていただき審議をお願いしたい。忌憚のないご意見をいただきたい。

**青木議長挨拶**

- 今回の検討部会は10月に起きた台風19号の後、初の会議になる。心配していたコウノトリも翌日には飛来が確認され、その後もひかるは定着しているようだ。つまり、これまでの取り組みが生態系

保全にかなり役立っている。規約にある通り、にぎわいのある地域振興につなげていくという点では、本日の議題であるアクションプランは大事な策となっている。これまでの取り組みを報告いただき、みなさんのご意見を取り、更に進めていきたいと思う。活発な議論をお願いしたい。

## 議事（１）「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン実施状況報告」について

〈事務局より配布資料の説明（1-3 ページ；プロジェクト『1. 渡良瀬遊水地エリア エコネット拠点 100 選作成と広報』について〉

- 11月10日に開催したエコツアーで配布した際の反応はどうだったか。
  - 特段大きな反応はなかったので、広報力としてはまだ弱いかもしれない。
- 地域の自然や歴史に関心を持った時に、関心を深められる書籍があればいいかと思う。そのような書籍があるかどうかも含めて聞きたいがどうか。
  - 関心という点では、エコネット拠点は歴史、環境、遊び等といったカテゴリーはされていない。目的別という視点を取り入れる選択もあると思う。書籍ではないが、個別の拠点シートとして歴史系のもの（古河の公方公園等）を横断してまとめられるようにするなど、工夫の余地はある。また、将来的には拠点の入れ替えも考えられるだろう。
  - 文字を色分けするなど工夫はできると思う。書籍は遊水地についての物はあるが、そのほかは現状ではないかと思う。書籍も大事な要素だ。
  - 100選はかなり良い集積だと考えているが、HPをうまく使い、多くの人たちがアプローチできるような方法でないと維持できないかと思う。
- JTBと協力して小山市が冊子を作成するなど、個別では実施されている。本検討部会ではJTB等と協力することはできないのか。そうすれば、もっと広域性を出せるのではないかと思う。広域性が出ると、個人でも旅行など検討しやすくなると思う。
  - ご朱印帳のように冊子を購入してもらって記憶に残るし、シールを貼るのも楽しいのでよいのではないか。
  - 広域性というには、どこまでを範囲とするのかも難しい。保全・利活用合同検討部会では4市2町の連携と言っているが、この組織とは別なので、どのように分けて考えるかが難しい。
  - シールや印を全ての拠点に置く訳にはいかないが、配布できる場所ができるか、各拠点の確認が先となる。10市町の協力・連携が不可欠である。

〈事務局より配布資料の説明（4-14 ページ；プロジェクト『2. エコツーリズム』について〉

- アンケートは実施したのか。結果はどうであったか。
  - 私費で来てもらっているのも、もとよりアンケートを実施する予定はしてなかった。大げさでない程度にヒアリングを実施した結果としては、「盛り込み過ぎ」という意見がある程度聞かれた。料金については、高いと感じた方が半分いて、適度と感じた方が半分だった。
  - 意見を聞くことは重要だ。
- 参加人数が20人であったことはいいと思うが、利益がでるかも大切だろう。

→損益分岐点は20～25名だ。利益を増やすために40名とすると体験の場で待機時間ができて不満につながるので、施設の受入れ可能人数を考えても中型バスレベルの25名で開催できる価格設定とすると維持できるのではないかと旅行会社と話している。

- 農泊を組み込むなど、グリーンツーリズムは是非やっていただきたい。複数箇所を回るよりも1か所拠点を決めてツアーを実施したほうが、自然観察もできるし盛り込み過ぎなくてよいように思う。小山市生井地区などで実施可能かと思う。
- ヨシ焼きは日程が決まっているが、ヨシ焼き体験ツアーの日程はどうなっているのか。
  - 本日午前のヨシ焼き会議で日程が決まっていると思われる。ツアー行程としては、1日目の朝にヨシ焼きの講習、夕方にはチュウヒの罅入りの観察、2日目に火入れに参加し、その後、結城紬着付け体験や境町でセグウェイ体験もよいかと考えている。
- 将来的には年に何回くらいツアーを実施する想定か。いつまで実施するか。
  - 次年度開催するツアーの回数としては、出水後に3回くらいと想定している。今年度3月に開催するヨシ焼きの1泊2日ツアーで旅行会社に自主的な開催に対して関心を持ってもらい、商品化したい。
  - アクションプランの計画期間は、令和2年度末までであり、そこまでに商品化を目指したい。
  - 地元と旅行社が自立して行うことが目標と考える。
  - 将来的に渡って国交省が関わり続けることはできないので、その部分についても意見をほしい。
- 流入堤へ入ることは、許可を得られれば市でもできるのか。
  - 常時開放することは難しいが、今後、もっと観察等のために開放することを検討しているので、ぜひ利用してほしい。
- 投網指導などは誰がしたのか。
  - 人件費の問題もあるので、国交省が委託している魚類調査と連携させて実施した。ヨシズ作りの指導は栃木市のボランティア。費用が100円なので500円くらいにしてもいいと思う。ホフマン館もペーパーウェイトづくり体験が300円で、レンガ窯見学も100円であるうえ、英語対応可能となっている。
- すべての地域に、自分の地域を知ってほしいと思って活動している人がいるとは限らない。そのような人がいない場所ではどうするのか。地域ごとの人材育成は国交省がやる仕事ではなく、自治体や団体等とどう進めていくのが課題だ。
  - ツアーの部分毎については人材はいるのだが、全体を説明できる人がいない。そのために今回は小山市のガイド協会である門馬氏に参加してもらった。有償ツアーでは人材育成も含めることが必要かと思う。
  - 利活用協議会ではガイド協会等もコミットしているので、本検討部会と横断的に連携し、俯瞰してガイドができる人を育てることが重要だと思っている。

〈事務局より配布資料の説明（15-17ページ；プロジェクト『3. 田んぼの生き物調査』について）〉

- 来年度は多くの人に参加してもらい、その場で結果を共有することで励みになるのではないか。コウノトリの飛来情報を伝えることで、参加者のモチベーションにつながる可能性がある。
  - 学術的なデータが取れるかは別だが、エコツアーに組み込むのも良いかと思う。

- 餌生物が多いのは重要だと思うが、コウノトリが実際どこを利用しているのかが重要だ。いくらエサがあってもコウノトリが採餌できる環境がなければ意味がない。今の時期だと畔ではコウノトリは採餌しない。実際にコウノトリが利用可能な環境を造っていくことも重要だと考える。
  - 豊岡市ではコウノトリの餌場を創出するために草刈りをしている。渡良瀬遊水地でもガマ刈をしたらコウノトリが利用した例もある。
- 豊岡市では、コウノトリは強力な捕食者のため、餌生物の生息が孤立した環境だと食い尽くされているようだという話もある。コウノトリがどれだけ食べてもカエル等が多数出てくるような全体的に良い環境を造り、その中でコウノトリの餌場があるということを同時に進めていくことが大事だ。

〈事務局より配布資料の説明（18 ページ；関連性のある既存組織との連携について）〉

- 台風 19 号のような状況はまれだと思うが、一時的だとは考えられるが小さな池から与良川へ水路を通して水が逆流している。水路を掘ったことで、旧与良川の土管のあるところには水際にジシギが飛来している。土管から小さな池の部分ではうまく採餌は出来ていないがコウノトリも飛来し、小魚が入ったことでカワセミもいた。
- 水路の傾斜角つまり法面の角度が重要だと思う。あまり垂直だと湿地性の植物は増殖しないので鳥が利用しなくなる。
  - 貴重な植物のあるところだったので、水路を狭くするべきとの意見があった。今後モニタリングを実施し検証する予定にしている。
  - せっかくなら他の鳥も使える様に検討することもよいのではないか。
  - 水路を掘れば生物が利用する。まだ水路を掘れる場所があるので、希少な植物に関係がない場所では、緩やかな法面もあるので、実証しながら出来るかと思う。
- 第 5 回の会議でも話題に出たかと思うが、水路をつなげる検討は今年 3 月に魚類の関係者も調査しており、与良川から池に魚が遡上し産卵できるかという視点でこの場所になっている。池から川への逆流は魚が上流に上がるという点ではよかったかと思っている。

## 議事（2）「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン決定後の新規取り組み」について

〈事務局より配布資料の説明（19-21 ページ；渡良瀬遊水地第 2 調節池内水系ネットワークの構築について）〉

- 与良川は生物量が多いのだが、採餌場所としては良くないようで、なぜかコウノトリは利用しない。
- 水路ネットワークの形成によって水量が増えるので樹木の浸入も抑えられるほか、魚の「のっこみ」も再生できるため、様々な意味があると思う。
- ブラックバス等、外来種もネットワークで拡大する可能性もあるので検討してはどうか。外来種駆除のプラン決定への貴重な要素にもなると思われる。ぜひ資料の提示をお願いしたい。
  - 今後のモニタリングが重要になると考えている。

〈事務局より配布資料の説明（22 ページ；人為攪乱型実験地直営管理の試行について）〉

- 自分は水田農家なので、こうなることは予想できていた。草刈りの頻度が少な過ぎたのだろう。トラクターを近隣に配置し、常時入れるような状態にすべきだった。ガマを刈って水を落とし、大型トラクターで耕せば本来の目的とした湿地ができるのではないかと。付近の農家に依頼すれば出来るであろう。
- 水深が1~2mあるところなので、排水目的も兼ねた水系のネットワーク化が重要だ。
- ヨシゴイや魚類等も入る。水位の調整は重要で、せいぜい水位は30cmくらいが一番良いと思う。モザイク的な環境造りをすることで、カモが隠れて利用するとチュウヒも狩場として利用すると思われる。コウノトリだけでなく多様な生きものための環境を造ることも重要かと思う。
- 草刈りをしないと、陸地も草で覆われてしまっている。水面に入る前の斜面から30cmくらいの部分まできれいに草刈りし、少しガマの方へ入って刈り、人に見られないような空間を造ることで翌日にはコウノトリが入り、カモも結構入っている。水量が増えてどうにもなくなると、しばらく使えなくなるので、やはり水位の調整も重要だ。人為攪乱型実験地で、年1回耕起という区画については、今はガマだらけだが以前はサンカノゴイもよく利用していた。水も増えたのであぜ道部分が水路になり、カモがあちこちで泳いでいる。全体が大きな池のようになり、ガマの生えている場所は三角形の区画も含めて3ヶ所だが、ここも当初からガマが繁茂している。邪魔であるが、小さくとも刈り取れば水鳥が入ることが良く分かった。
- 今年は職員と関係団体の15人程度で実施した。来年度は市民協働の事業として多くの方の協力のもと事業を実施したいが、準備が大きく出来るわけではないので、どのような規模になるかは未決定である。
  - 皆さんで共同して進めていきたいので、ぜひご協力のほどお願いしたい。
- 大型特殊免許を持っている来訪者にトラクター運転の体験をさせるのはどうか。
  - エコツアーとしてガマやヨシ刈り体験もありかと思うが、トラクターは難しいだろう。人力での作業となる。ガマを残すことによるメリットもあるようなので、モザイク状に残すつもりである。
- 現在、渡良瀬遊水地でこの場所がチュウヒの一番の利用場所になっているため、チュウヒの高利用箇所は避けていただきたい。チュウヒはモザイク的な土地が一番利用しやすい。ペレット解析では、カモ類をよく食べているようで、ネズミも多く、魚でも何でも食べる。

〈事務局より配布資料の説明（23ページ；渡良瀬遊水地エリアにおけるコウノトリの自然繁殖に向けた勉強会の開催について）〉

- 渡良瀬遊水地でも近い将来コウノトリがペアになるのではないかと状況だ。豊岡市のように毎年コウノトリが増えていくという可能性が高くなっている。餌生物の不足が懸念されるので、広域に跨った餌生物量の確保が必要になると思われる。豊岡市での課題は、近い将来こちらでも同じようになる可能性がある。情報共有の意味でも、全国と交流していく事が必要と感じた。
- 豊岡市では、農家が取組みを自慢する気持ちを持つということが、広がりを見せていると実感する。食文化も重要だが、食べるだけでなく生産や販売に関する契約を行うことで、農家をいかにエコツアーへ巻き込むかがポイントだと思われる。
- 台風による植物への影響についても把握すべきである。

- エコツアーは、一般には立ち入れない治水施設の見学などもあり、良かったと思う。
- ヨシ焼きツアー参加者には安全講習受講の後にヨシ焼きに参加いただく予定とのことだが、地域の方々の参加も制限している中で、調整が必要だろう。
- 今回の台風で初めて怖さを感じ、治水の重要性をつくづく実感した。渡良瀬遊水地の整備について今後どうするかも考えていく必要がある。エコツアーの中ではハートランド城でのヨシづくり体験の際に待ち時間が生じたようだが、写真展を見てもらったりなど、近隣の観察会メンバーなどに協力を依頼し、解説の時間を設けるなど、できるのではないかな。
- コウノトリは渡り鳥であるという点を考慮する必要がある。行動を観察していると、広い範囲であちこちへ飛来しては渡良瀬遊水地に戻っている。最近では板倉町の遊水池や館林市の多々良沼での採餌回数がとても多い。カエルなど餌が多い場所へ行っているのだろう。稲刈り後の水たまりのドジョウや小山市の釣り堀等でも食べている。広域に跨り飛来往復している。10市町ある中でも、渡良瀬遊水地から離れている自治体でも飛来してくる可能性があるため、広域連携の視点も重視して考えていければ良いのではないかな。

#### 閉会挨拶（利根川上流河川事務所三橋所長）

- 皆さまからのご意見は持ち帰り検討させていただきたい。台風に関してご説明させて頂くと、渡良瀬遊水地とその下流に田中、稲戸井、菅生という調節池があり、合計で2.5億t水を入れられるが、渡良瀬遊水地には今回1.6億tの水が流入した。満杯で1.7億tなのでほぼ95%にまでなった。効果は大きかった。今回、渡良瀬川、思川、巴波川含めて利根川本川からもかなり逆流をしている。利根川本川の中流域は大規模な引き堤をしており、川幅は広く、堤防の高さも2倍程高く、上流にダム湖を造ったので、渡良瀬遊水地等全体を合わせて台風19号をギリギリ乗り切った。皆さまも機会があれば、この点をPRいただきたい。今回の台風は動植物に対してもインパクトが大きく、これから調査を進めていくことになるが、台風における治水効果も含めてエコロジカル・ネットワークの検討を進めて頂きたい。

以上